

日本ベントス学会誌 投稿規定

1. 投稿資格：投稿論文の著者は正会員および個人の賛助会員に限る。ただし、共同執筆者には会員外を含むことができる。なお、運営委員会が特に認めた場合には、会員外から特別寄稿を受けることができる。投稿される原著の報文（原著論文、短報および総説）は未発表のものに限る。
2. 報文の性格：日本ベントス学会誌は原則として和文を掲載する。科学的知見がそれを立証すべき資料および考察を伴って提示されたものを原著論文、新しい事実や速報的内容として価値のある知見を含む比較的短い報文を短報とし、特定の主題に関する包括的な知識の集成および見解を述べたものを総説とする。総説については、会員からの自由投稿のほか、編集委員会の企画で適任者への執筆を依頼することが有意義であるもの、測器や処理技術に関するものなどを含む。雑録は紀行報告、感想、資料、質疑応答などを含む。また、研究情報は、国内外の関連学会および機関の行事などの予告・記録、国内外の研究機関の紹介、書評、分野別文献目録などを含むものとする。掲載の可否は編集委員会が決定する。
3. 校閲：原著論文・短報・総説に関しては校閲制度を設ける。編集委員会は、校閲の適任者2名以上を選び、原稿の査読を依頼する。論文の内容・体裁に関して問題があると編集委員会が判断した場合には、投稿者にその旨を通知し、修正を求める。修正を求めた原稿が3カ月以上たつて編集委員会に返ってきた場合は、新規投稿として取り扱うことがある。
4. 投稿：原稿は電子メールに添付して送付すること。
送付・問い合わせ先：〒739-0452 広島県廿日市市丸石2-17-5 国立研究開発法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所 浜口昌巳 気付 E-mail: masami@fra.affrc.go.jp
なお、原稿中で、すでに印刷された図表ならびに本文を転記（引用）する際には著作権法に従い、必要な場合には、著者の責任において著作権所有者の許諾を得るものとする。
5. 掲載料：学会負担印刷ページの限度を原著論文8ページ、短報4ページ、総説12ページとし、これを超える分については1ページにつき9,000円を著者が負担するものとする。ただし、編集委員会が特に依頼した原稿についてはこの限りでない。また、カラー図版や折り込み図表については実費を徴収する。
6. 別刷：別に定めた別刷定価表による費用を著者が負担する。
7. 校正：著者による論文の校正は、原則として1回のみとし、著者が受け取ってから3日以内に編集委員会に返却すること。校正は印刷のミスについて行い、本文や図表を変更することは認めない。校正段階でやむを得ず原稿を修正する場合は、組み直しに要した費用一切を著者が負担するものとする。
8. 著作権：日本ベントス学会誌に掲載されたすべての報文（図表等も含む）の著作権は、日本ベントス学会に帰属する。

日本ベントス学会誌原稿作成上の注意

1. 原稿は、文章の部分、図、表も含めてすべて3部を作成する。文章の部分は原則としてワードプロセッサで作成する。印字の場合はA4判用紙を使用し、ダブルスペースで印字する。表もダブルスペースで印字する。目安としては1ページあたり25行程度、1行あたり30~40文字程度、文字の大きさは10~12ポイント程度とし、明朝体かそれに類似する書体を使用する。日本語文字は全角文字、英語文字および数字は半角文字とする。なお原稿用紙を使用する場合は、20×20字詰め横書き原稿用紙（A4判）を用いる。
2. 原著の報文原稿は、タイトル、著者名、英文要旨、本文、文献、表、図の説明、図の順に配列する。第1葉は、タイトル、著者名、所属・住所、英文タイトル、英文著者名、英文所属・住所、ランニングタイトル、脚注に示される著者名、所属、所在地（ただし別刷請求先に*をつける）を示す。第2葉は英文要旨とキーワードのみとし、本文は第3葉から始める。第1葉から末尾の文献まで一連のページ番号を記す。
3. 英文要旨は、250語程度とする。
4. キーワードは、英語で8語以内とし、アルファベット順に配列する。
5. ランニングタイトルは20字以内とする。
6. 生物の名前は、それが初出の部分に学名も入れる。学名はイタリック体とし、イタリック指定は原稿中に下線で記すこと。
7. 本文中での文献の引用は、山本（1995）、菊地・田中（1990）、Sanders & Hessler（1980）、（金盛 1982；市来ら 1991）、（Smith 1985；Balber et al. 1990）のようにする。小キャピタルは使用しない。
8. 文献表記の方法は、著者名をアルファベット順に配列し、下記の形式で記すこと。欧文単行本名は全名詞大文字始

りのイタリックで、雑誌名は省略なく全部を表記する。欧文雑誌名はイタリックとし、下線を付して指定すること。
○○編の表記は○○(ed(s.))または○○(編)とする。

George, R. W. and A. R. Maine 1967. The evolution of spiny lobsters (Palinuridae): a study of evolution in the marine environment. Evolution, 21: 803–820.

堀越増興 1973. 海洋ベントスの群集生態学. 山本護太郎(編), 海洋生態学, 東京大学出版会, 東京, pp. 49–63.

市来忠彦・種村一茂・富永叶男・塩川 司 1976. イセエビのプエルルス幼生および初期稚エビの採捕とその生態. 水産土木, 12: 31–36.

北村良之介 1963. 瀬戸内海とその近接水域の沿岸における底生動物群集の漁場学的研究. 南西海区水産研究所研究報告, 21: 1–90.

Levinton, J. S. 1977. Ecology of shallow water deposit-feeding communities, Quisset Harbor, Massachusetts. In Ecology of Marine Benthos, Coull, B. C. (ed.), University of South Carolina Press, Columbia, South Carolina, pp. 191–227.

MacArthur, R. H. and E. O. Wilson 1967. The Theory of Island Biogeography. Princeton University Press, Princeton, New Jersey, 203 pp.

三宅貞祥 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑(1), 保育社, 東京, 261 pp.

Mukai, H. 1998. Measurement of bioturbation rate in tube-building maldanid worms (Polychaeta: Maldanidae) with a video observation system. Benthos Research, 53: 1–8.

Tamaki, A. 1985a. Detection of non-interference within a mobile polychaete species. Journal of Experimental Marine Biology and Ecology, 90: 277–287.

Tamaki, A. 1985b. Zonation by size in the Armandia sp. (Polychaeta: Opheliidae) population on an intertidal sand flat. Marine Ecology Progress Series, 27: 123–133.

9. 図表とその説明は、英語表記とする。各図の説明は一括して原稿の末尾に置く。表の説明は、表の上に置く。表もダブルスペースで作成すること。図表の説明はそれだけで内容がわかるよう丁寧に記述すること。図表の挿入位置は、原稿の余白に明記すること。
10. 図の原図の大きさは原則的に21×30 cm以下とし、文字の大きさや線の太さは縮示されて印刷されることを考慮すること。投稿の際に送付する3部は、鮮明な複写で作成すること。写真が含まれる場合、それも写真で3部作成すること。コピーは不可。ただし写真と画質的に遜色無いカラーコピー等による複写は、認められる。原図には図の番号、著者名を明記すること。
11. カラー図版や折り込みの図表については実費を徴収する。
12. 英語部分(タイトル, 要旨, 図の説明と図中の用語, 表)については、必ず投稿前に英語を母国語とする適当な人のチェックを受けること。編集委員会は原稿レビュー前に英文チェックを受けるよう要請することがある。それらに要する費用はすべて著者負担とする。
13. 印刷した原稿を郵送等により投稿した場合は、原稿が受理された後、編集委員会からの指示に基づいて原稿の電子ファイルを電子メールへの添付等により送付すること。
14. 原図は投稿原稿が受理された後、編集委員会からの指示に基づいて送付する。